

軸となる取組・活動 【 規範意識の醸成（キャリア教育） 】

義務教育卒業時に付けたい力 ・規範意識を身に付け、思いやりの心を持ち、自主的に判断し行動できる 自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行する態度 思いやりの心をもって人と接するとともに、互いの個性や立場を尊重する態度 法やきまりの意義を理解し、それらを守ることで集団生活の向上に努めようとする態度																											
学年または学年区分ごとにめざす姿																											
友だちと仲良くし、助け合える子 自分からすすんでがんばれる子			思いやりをもち、集団や社会のきまりを守り、身近な人々と協力して助け合える子		自分の思いをもち、相手の思いを受けとめ、希望と勇気をもってがんばれる子 法やきまりの意識を理解し、集団における自己の役割と責任を果たせる子		集団の一員としての自分の役割を認識し、友情を深め、自己の向上を図ろうとする態度と実践力を身に付ける		将来を展望しつつ、集団生活の中で、自律の精神をもって積極的に自他共に高めていこうとする態度と実践力を身に付ける																		
小1（1年）			小2（2年）		小3（3年）		小4（4年）		小5（5年）	小6（6年）	中1（7年）	中2（8年）	中3（9年）														
小学校の取組	行事や学級活動を通してみんな協力することの喜びや楽しさを味わう。みそあじの取り組みを通して自分のことは自分でしようという心情を養う。 （安井小）			節度ある生活を送るために時間を守り、身だしなみを整え、周りの環境を整える。礼儀正しく人と接するために相手の顔を見て自分からあいさつをする。返事やお礼をはっきりと言う。			たてわり活動や委員会活動を通して、学校の仕事をすすんで行い、下級生や仲間に思いやりのあるコミュニケーションの方法を身に付ける。いろんな行事を通して学校のあこがれの存在になる。			中学生としての自覚をもち、新しい学校のルールを遵守する。生徒会活動に積極的に参加し、集団の一員として活動する。			チャレンジ体験や高校訪問事業を通して、将来展望を広げる。生徒会活動の中心学年として活躍できる場を設定する。	義務教育最終学年として、自覚と責任をもち行動する。後輩の目標となるような先輩として学校生活での模範を示す。													
	学校生活に慣れることを第一に考え、学校探検で2年生が1年生を連れて学校紹介する活動をしている。給食や清掃活動など当番活動ができるように6年生が手助けをして、教えてあげるなど、細かく指導していく。 （山ノ内小）			友だちを意識し始める年齢であり、10才の壁がスムーズに越せるように、モノづくりの殿堂学習で将来への展望を広げる。2分の1成人式を行い、生まれてからこれまでの10年間をふり振り返り、自分を見つめられるようにする。			高学年としての自覚をもてるように、校内で大人の人に出会ったらに進んであいさつをする等、学校のルールを遵守する。委員会活動を通して、様々な場面で学校をよりよくする取り組みが自ら考え、行動できるようにする。ジョイフル集会では見本となったり、たて割り活動では中心になって活躍できたりする場を設定する。																				
四条ブロックの取組	誰にでも温かい心で接し、親切にしようとする心情を育てる自分でやらねばならない勉強や仕事をしっかりやろうとする心情を養う			困っている友だちに対して、思いやりの心をもって接しようとする態度を育てる勇気をもって行動することの大切さに気づき、よいと思ったことは積極的に行っていこうとする態度を養う			相手のことを思いやり、親切にしようとする心情を育てる自分でやろうと決めたことは、あきらめないで、工夫して粘り強くやり遂げようとする意欲を育てる			相手の気持ちになっ互いに信頼し、励まし合って友情を深めていこうとする心情を育てる進んでみんなのために働くようとする態度を養う			誰に対しても思いやりの心を持ち、常に相手の立場に立って物事を考え、優しく親切に接しようとする心情を育てる集団の中で自分の役割を自覚し、主体的に責任を果たそうとする態度を養う			利害や損得にとらわれず、誰に対しても温かく思いやりの心を持ち、親切にしようとする心情を育てる社会のために役立つ喜びを知って、進んで公共のために役立つようとする態度を養う			他の人々に対し、思いやりの心をもって接していこうとする、道徳的な態度を育てる自分自身の弱い部分に流されず、しっかりとした自分をもって努力していこうとする態度を育てる			人は関わり合いの中で生きていることを感じ取り、感謝と思いやりの心をもって行動しようとする心情を育てる自分で考えて行動し、自己の行為の結果に対して、責任を持つようとする心育てる			温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対して思いやりの心をもって接しようとする態度を育てる加害者の立場に立つことによって、償うこと・許すことの難しさを知り、自らの行為が及ぼす結果まで深く考えなければならぬことに気づき、自らの行為に対して責任を持って行動しようとする態度を育てる		

軸となる取組・活動 【 教科学習（算数・数学） 】

義務教育卒業時に付けたい力									
○算数・数学における基礎的、基本的な知識・技能と、課題解決のために必要な思考力・判断力・表現力									
○算数・数学を学ぶことの楽しさや意義を実感し、目的意識をもって主体的に取り組む力									
○進路実現に必要な確かな学力									
学年または学年区分ごとにめざす姿									
(Ⅰ期 小1～小4)繰り返し学習を重視し、知識・技能の確実な定着を図るとともに、算数的活動を通じて数や量の大きさ、図形についての感覚を豊かにする。									
(Ⅱ期 小5～中1)Ⅰ期までの知識・技能の定着状況をもとに場面設定や設問等を工夫し、より思考を深める場を設定することで論理的思考力を身につける。ペアやグループ学習を活用し、発言頻度を高めるとともに筋道を立て根拠を明らかにできるようにする。									
(Ⅲ期 中2～中3)これまでの学習実態をもとに、論理的考察やその過程の振り返り考えを深める場面を設定することで、問題解決力を身につける									
	小1(1年)	小2(2年)	小3(3年)	小4(4年)	小5(5年)	小6(6年)	中1(7年)	中2(8年)	中3(9年)
小・中学校の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し学習を重視し、知識・技能を定着させ、正しい答えにたどり着く達成感を味わわせる。また話し方や聞き方、ノートの書き方の基礎を定着させる。 ・問題場面の数量やその関係を、式や図、表、グラフなどと関連づけて捉えたり、表現したりすることを習慣化させる。 ・算数的活動を通じて、数や量の大きさ、図形についての感覚を豊かにする。 				<ul style="list-style-type: none"> ・学習方法や形態等の急激な変化がないよう、小中相互の実態を十分に踏まえた緩やかな接続を意識する。そのためにも、文字を用いた式や、比例と反比例といったような小中で反復する内容では内容のひろがりを意識した授業を展開する。 ・算数・数学的活動を通じて、数や量、基本的な図形の性質を確実に理解させる。 			<ul style="list-style-type: none"> ・設定された問題解決場面において、情報を集めて考察し、その思考過程や判断の根拠などを数学的に表現して説明させる。 ・数学的活動を通じて数量や図形などの基礎的な概念や原理、法則の理解を深め、より高度な数学への学習につなげる。 	
四条ブロックの取組	<ul style="list-style-type: none"> ・指導単元の前後関係やその指導内容・方法等の系統を踏まえ、つながりを意識した指導を行う。 ・児童生徒の発達や学年の段階に応じた反復指導を行い、指導内容のなだらかな発展や学び直しの機会を充実させる。 ・既習内容を以降の学年でも意識的に指導し、活用を図る場面を設定する。 ・各学年における学習内容の確かな定着につなげるための言語力、算数・数学的表現(図、数直線、グラフなど)の指導を積み上げる。 ・中学1年生4月実施のジョイントプログラムテストの分析結果を各校で共有し、よりよい教科指導へとつなげる。 								

軸となる取組・活動 【 教科学習（英語） 】

義務教育卒業時に付けたい力

「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の4技能を総合的に活用し、積極的にコミュニケーションを図ろうとし、自らの考えを相手に伝えることができる力

学年または学年区分ごとにめざす姿

- ・小学校低学年・中学年においてはイングリッシュシャワーを通して、英語に慣れ親しむ
- ・小学校高学年からは本格的に英語活動が始まるが、「聞くこと」「話すこと」においての素地を築く。
- ・中学校段階では、「聞くこと」「話すこと」に加え、「読むこと」「書くこと」を明示することで、小学校における英語活動で育まれた素地の
上に、これらの4つの技能を総合的に活用し、自らの考えを伝えるために積極的にコミュニケーションを図ろうとする。

	小1（1年）	小2（2年）	小3（3年）	小4（4年）	小5（5年）	小6（6年）	中1（7年）	中2（8年）	中3（9年）
小学校の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・イングリッシュシャワー（お昼の放送の時間や掃除の時間を利用して、英語の曲を流したり、時にはALTに出演してもらい、生の英語に触れる。ALTを有効活用し、昼食指導に積極的に参加してもらったり、イングリッシュボードを作成してもらう。） 				<ul style="list-style-type: none"> ・イングリッシュシャワー ・「聞くこと」「話すこと」を中心とした言語活動。 		<ul style="list-style-type: none"> ・イングリッシュシャワー ・「聞くこと」「話すこと」を中心とした言語活動。 ・自らの体験や考えなどと結びつけながら、「話すこと」や「書くこと」の技能を活用し、発信する活動 		
四条ブロックの取組	<p>イングリッシュシャワーを通して、日ごろから英語に慣れ親しみ、英語が日常生活の一部となるように取り組む。</p>								

軸となる取組・活動 【 教科学習（国語） 】

義務教育卒業時に付けたい力									
積極的に自分の考えを持ち、発表する力。									
意見交換を通じて、自分の考えを人に説明したり、人の考えを理解したりする力。									
意見交換を通じて、自分の考えを深める力。									
漢字や熟語を正しく活用し、表現を豊かにする力。									
学年または学年区分ごとにめざす姿									
小学校：本に親しみ、積極的に読書に取り組む。									
小学校漢字が定着し、授業内外で活用できる。									
中学校：読書習慣を継続し、様々な種類の本を通じて見識を深める。（文章を読む力と語彙力の向上を目指す）									
自分の考えを口頭でも文章でも表すことができる。（言葉を用いたコミュニケーションを活発に行えるようにする）									
他者の意見を聞き、自分の意見を広げたり深めたりすることができる。									
	小1（1年）	小2（2年）	小3（3年）	小4（4年）	小5（5年）	小6（6年）	中1（7年）	中2（8年）	中3（9年）
小学校の取組	漢字・かなの書き取り（正しく読み書きする、楷書で丁寧に書く）								
	朝読書（読書の習慣・図書館の活用）								
	積極的な交流・意見交換（「協働的な学び」をテーマとし、教え合い等の活性化）								
四条ブロックの取組	漢字・かなの書き取りを日常的に行い、漢字の定着と語彙力の向上を目指す。								
	朝読書を9年間継続して行い、読書の習慣を根付かせると共に、図書館を積極的に利用する姿勢を養う。								
	自分の意見を口頭で説明する機会を多く設定し、「話す・聞く」能力を養う。								
	自分の意見を文章で表す機会を多く設定し、相互評価や教員の確認を通じて、文章力の向上を目指す。								